

武蔵野美術大学 美術館棟リニューアル開館記念

「WA：現代日本のデザインと調和の精神」展

世界が見た日本のプロダクト

Paris, Budapest, Essen, Warsaw, Saint-Etienne, Seoul and Tokyo

本展の趣旨



「現代のデザインにおける日本(和)とは」

この展覧会は、2008年、パリで開催され、その後、2011年3月までに、ブタペスト、エッセン、ワルシャワ、サンテティエンヌ、ソウルと巡回してきました。今回の武蔵野美術大学 美術館・図書館での開催は、帰国展となります。世界が見た日本のデザインを、あらためてわたしたち自身で見直すことで、自らのデザインの現在を再認識し、またこれからのデザインを考えていく指針となる展覧会となります。

以下は、巡回先での本展の内容を伝えた文章です。武蔵野美術大学での開催においても、内容は、基本的に変わりません。したがって、ほぼオリジナルのまま、ここに再録いたします。

21世紀に入り日本のデザインは新たな姿を見せています。時代をリードするデザイナーやデザイン・プロジェクトの活発な活動のみではなく、中央と地方、大企業と中小企業などさまざまな幅広いレベルでのデザイン活動がネットワークを形成し、さらに、技術革新の進展にとどまらず、先端技術と伝統技術の融合などの局面も生まれ、さまざまな優れたデザインのモノが日本人の現代のライフスタイルを彩っています。

それらのデザインは、産業活動や経済活性化にとって重要であるのはもちろんですが、それにとどまらず、現代の日本の社会のダイナミズム、文化、生活のありようを鮮明に映し出しているという点で文化的な重要性も増しています。というのも、プロダクトデザインは、私たちの生活に根ざした、優れて人間的な産物であるからなのです。

こうした活気に満ちた状況を現代日本のプロダクトデザインの世界に生み出しているのは、何なのでしょう？

いくつかの要因が考えられます……伝統工芸と先端テクノロジーの融合、手工芸と工業の新たな連携、中央、都市のデザイン活動と地方のモノづくりの交流、日

会期：

2011.6.24(金)–7.30(土)

取材・掲載のお問合せ：

武蔵野美術大学 美術館・図書館

美術館広報担当まで

tel: 042-342-6003

fax: 042-342-6451

mail: prmsm@musabi.ac.jp

[プレス用図版について]

このリリースに掲載されている図版をプレス掲載用データにてご用意しております。ご希望の方は、担当までお問い合わせ下さい。

本的なものと欧米的なものとの相互作用、古い素材の新たな利用、自然環境への意識と技術力との融和……。さまざまな対立する項の共存と統合が、国内外のネットワーク社会の進展とデジタルテクノロジーの浸透という21世紀のうねりと共鳴し合いながら、日本のデザインの世界で加速度的に進行してきました。

日本には、「和——WA」という伝統的な精神があります。さまざまな価値、さまざまなひとびと、さまざまな立場、対立する項を融和し、より高次元なレベルで統合しようとする精神です。21世紀の現代日本デザインの活況の根底には、モノづくりにおいて、さまざまな価値や立場を統合、融合していく精神、すなわち、和の精神が根底にあるのではないのでしょうか。

本展では、プロダクトデザインのさまざまなフィールドから優れたデザイン約160点を選びだして紹介し、現代日本デザインのダイナミックな動きとその背景となる事象を紹介します。そして、展示を通して、現代のプロダクトデザインにおける日本(和)的なもののありかを指し示します。

監修／柏木 博

開催に向けて

「武蔵野美術大学 美術館・図書館で日本初の帰国展開催」

武蔵野美術大学 美術館・図書館のリニューアル開館記念の一環として、国際交流基金(ジャパンファンデーション)により世界各国を巡回したWA展を日本初の帰国展として開催します。本展は、美術・デザインなどの造形分野を専門とする武蔵野美術大学で開催することで、デザイナーやアーティストを志す学生や多くのクリエイターを喚起するような展覧会とします。来館者にとって「世界が見た」今日の日本デザインの諸相を見ることで、さらに将来に目を向けて新たな可能性を広げていく機会になればと考えます。

WA展の企画

「4人のキュレーション」

本展は海外巡回展として国際交流基金が計画し、柏木博(武蔵野美術大学教授)、深川雅文氏(川崎市民ミュージアム 学芸員)、萩原修氏(デザインディレクター)、川上典李子氏(デザインジャーナリスト)の4人のキュレーターによって企画されました。

展示とグラフィックデザイン

「展覧会をデザインする」

インテリアからプロダクトデザインまで手がけるデザインユニットのトネリコが、新しくリニューアル開館する美術館の空間を活かした展示空間をデザインし、その空間照明はパリ会場を担当した山下裕子氏がデザインします。また、グラフィックデザインはパリ展を手がけた松下計氏と田辺智子氏が、基本コンセプトに沿って、本展に合わせたポスター、チラシから展示解説などの会場グラフィックなどまでデザインします。本展では、これらの空間デザインとグラフィックデザインが有機的に結びつくことによって「WA」の世界観をつくり上げます。

巡回について

「世界が見た」

WA展は海外巡回展として2008年10月のフランス(パリ)展を皮切りに、ハンガリー(ブタペスト)、ドイツ(エッセン)、ポーランド(ワルシャワ)、フランス(サンテティエンヌ)、韓国(ソウル)の6カ国を巡回しました。本展は日本初の帰国開催となります。

展示について

「分かりやすい展示構成を目指して」

大小3つの展示室を使い、いくつかのコンセプトに分けて現代日本のプロダクトデザインの特徴や魅力を浮き彫りにします。今日、わたしたちが使っているプロダクト(製品)は、およそ2万点あるともいわれています。その膨大なプロダクトの中から、本展では、とりわけ現代の日本を表象していると思われるプロダクトデザインを約160点、選んで展示します。わたしたちの感覚や思考や意識そして文化を表象するプロダクトデザインを、幾つかの重要なテーマごとに分けて理解しやすく展示することで、今日の日本的な「WA」を感じて頂ければと思います。

1: 「調和の精神」

新しいものと古いもの、先端技術と伝統文化、人工と自然、グローバルとローカル、日本的なるものと西洋的なるもの、遊びと実用、感情と理性……日本のものづくりの現場では、対立する概念が互いに結びつき、作用し、調和するようにして、新しい価値やかたちを創出しています。現代日本のデザインの特徴として、これら「調和の精神」を象徴する作品を十数点展示します。

2: 「日本のデザインを表象する12のカテゴリーと6のキーワード」

本展のメインとなる展示は、約150作品を日本の現代のデザインを理解するための「12のカテゴリー」と「6のキーワード」に分けた展示構成となります。



『12のカテゴリー』(道具としての分類、日本の現代生活が見える)

「1. 食器」「2. 水まわり」「3. 家電」「4. 情報」「5. 遊具」「6. 文具」「7. 雑貨」

「8. ウェア」「9. 包みとバッグ」「10. 乗り物」「11. 家具」「12. あかり」



『6キーワード』(日本デザインの特徴的な概念や感覚、あるいはテイスト)

「1. かわいい」「2. クラフト」「3. 木目」「4. 手ざわり」「5. ミニマル」「6. 心くぼり」

3: 「世界が見た日本のプロダクト」

世界を巡回したWA展が、各国でどのような評価や反響を得たのか、現地の会場風景とともに紹介します。

パリ日本文化会館, フランス パリ, 2008
(展示デザイン: TONERICO: INC.)

1:
富久錦 樽
D: 北川一成 (GRAPH)
C: 富久錦株式会社
1993

2:
クリンクル
スーパーバッグ
D: 小松 誠
C: プロダクト M
1979, 1981, 1997

3:
あかり IAT
D: イサム・ノグチ
C: 株式会社オゼキ
1952

4:
MODUS F11
D: ヤマハデザイン研究所
C: ヤマハ株式会社
2007

5:
アニマルラバーバンド
D: パスキーデザイン
C: アッシュコンセプト
2002, 2004, 2007

6:
MEMENTO
D: TONERICO: INC.
(米谷ひろし, 増子由美)
C: 株式会社カッシーナ・
イクスシー
2006

7:
NISSAN GT-R
D: 日産自動車デザイン本部
C: 日産自動車株式会社
2007
(1/40 model)

8:
HIROSHIMA
(ヒロシマ)
D: 深澤直人
(NAOTO FUKASAWA
DESIGN)
C: 株式会社マルニ木工
2008

9:
Tear Drop
D: 吉岡徳仁
C: ヤマギワ株式会社
2008

10:
INFOBAR,
INFOBAR 2
D: 深澤直人
(NAOTO FUKASAWA
DESIGN)
C: KDDI株式会社
2003, 2007

11:
オーパス-1 ネロ
D: 岩崎一郎
(IWASAKI DESIGN
STUIDO)
C: 有限会社エバークリーン
インターナショナル
2008

12:
OVO
D: 山中俊治
(LEADING EDGE
DESIGN)
C: セイコーインスツル
株式会社
2007

(D: デザイン C: 企業)



1



2



3



4



5



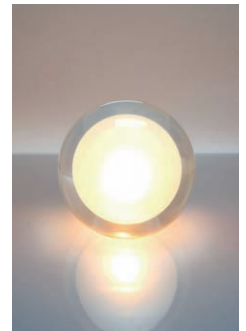
6



7



8



9



10



11



12

関連イベント：

「世界が見た日本の現代プロダクト」(仮)
WA展の企画や制作に携わった方々の
レクチャーを予定。世界を巡ったWA展を
通じて、現代に日本のデザインを振り返る。

[出演](予定)

柏木 博、深川雅文、萩原 修、川上典李子
他、予定

[日時](詳細はウェブサイトをご確認ください)

[会場]武蔵野美術大学

会期：2011.6.24(金)–7.30(土)

(閉館日：日曜日、祝日)

※7月18日(祝日)は特別開館

(10:00-17:00)

開館時間：10:00～18:00

(土曜日：17:00閉館)

会場：武蔵野美術大学 美術館展示室

主催：武蔵野美術大学 美術館・図書館

共催：国際交流基金

助成：芸術文化振興基金

同時開催展：

2011.6.24(金)–7.30(土)

「ムサビのデザイン——コレクションと
教育でたどるデザイン史」

開館以来収集してきたデザイン資料と、
本学で行われてきたデザイン教育で
近代デザイン史を通覧する。

—

本展の問い合わせ先：

武蔵野美術大学 美術館・図書館

(担当：北澤智豊、植松あおは)

東京都小平市小川町1-736

mail: prmsm@musabi.ac.jp

tel: 042-342-6003 fax: 042-342-6451

監修：柏木 博

企画協力：

深川雅文、萩原 修、川上典李子

展示デザイン：

TONERICO:INC.

米谷ひろし、君塚 賢

展示空間照明デザイン：

Y2 LIGHTING DESIGN

山下裕子

アートディレクション：

松下 計

グラフィックデザイン：

田辺智子

国際交流基金(担当 平昌子)

mail:masako@tmpress.jp

tel:03-5369-6062 fax: 03-5369-6038